

南台小学校校舎等整備について

1 南台小学校新校舎等整備の基本的な考え方

(1) 計画コンセプト

中野区では、主に以下の構想・計画等を踏まえ、新校舎等を整備していく。

○中野区基本構想（平成 28 年 3 月改定）	○新しい中野をつくる 10 か年計画（第 3 次）
・安心して産み育てられるまち	・地域の育成活動等の充実と育成者支援 （小学校内へのキッズ・プラザの整備と学童クラブでの放課後の子どもたちの安全安心な活動拠点の整備）
・自ら学び可能性を拓く子どもが育つまち	・質の高い教育環境の整備 （学校再編による児童・生徒数や学級数の一定数確保と子ども同士の交流など、集団活動の良さを活かした活気あふれる学校運営） ・体力向上させる取組の推進 （休み時間・放課後の外遊びの推進やキッズ・プラザ、放課後子ども教室の取組、子どもの自発的な運動を誘発するための環境整備など、遊びを通じた体力づくりの推進） ・特別支援教育の推進 （特別支援教育の充実、全小中学校に特別支援教室の設置）
・学びと文化を創造・発信するまち	・学校と連携した読書活動の推進 （地域開放型学校図書館の整備）

○中野区教育ビジョン（第 3 次）

- ・教育理念「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」

○中野区立小中学校再編計画（第 2 次）

- ・平成 29 年度 南台小学校開校（多田小学校と新山小学校の統合）

○中野区立小中学校施設改築等整備の考え方（平成 19 年 8 月）

- ・学習空間としての学校
- ・生活空間としての学校
- ・健康・体力を増進する学校
- ・地域コミュニティ施設としての学校

(2) 新校舎等の整備にあたっての基本方針

「中野区立小中学校施設整備計画」に基づき、以下の考え方のもと、新校舎等の整備を進めていく。

- ① 多様な学習環境を可能にし、地域活動の拠点となる施設の整備
- ② 効率的効果的な施設配置や施設設備の共同化
- ③ 今後の教育環境や社会状況の変化に対応できる学校施設の整備
- ④ 快適で安全かつ安心な施設環境の確保

(3) 新校舎等整備にあたっての具体的事項

新校舎等の整備にあたっての基本方針に関する具体的な対応については、以下のとおりとする。

① 多様な学習環境を可能にし、地域活動の拠点となる施設の整備

- ・校舎や校庭を一体的に使用していく新たな教育環境として、上履きを使用しない「一足制」での運用による校舎を整備していく。
- ・新校舎は地域開放型学校図書館及びキッズ・プラザ（活動室、学童クラブ室、子育てひろば事業を行う乳幼児室）と併設になることから、地域の拠点として区民や子どもたちが利用しやすい、親しみの持てる施設をつくる。

- ・ 災害時には屋内運動場等が有効に機能するよう、防災性能の高い施設として整備するとともに、通用門についても防災機能を意識のうえ可能な限り配置していく。
 - ・ 学級単位での学習のほか、チームティーチングによる学習、少人数指導、グループ学習等、多様な学習形態に対応できる施設をつくる。
 - ・ 南台小学校は幼保小中連携教育に加え、地域、保護者連携も含めた連携教育に力を注いでおり、地域コミュニティの核となる学校づくりを推進していることから、セキュリティに配慮しつつ地域に開かれた施設をつくる。
- ② 効率的効果的な施設配置や施設設備の共同化
- ・ 少人数指導教室として授業中使用する部屋を、放課後は児童会の活動場所としても活用するなど、限られた諸室を工夫して使用できるようにする。
 - ・ 図書室とコンピュータ室を一体的に整備し、「学ぶ」「調べる」「伝える」といった学習が効率的・効果的に行えるようにする。
 - ・ ランチルームと多目的室を一体的に整備するなど、諸室の機能は活かしつつも多目的・多機能なスペースとしても活用できる施設をつくる。
 - ・ 発達に課題のある児童に落ち着いた環境で専門的な指導を行えるよう、学習環境に配慮した特別支援教室を配置していく。
- ③ 今後の教育環境や社会状況の変化に対応できる学校施設の整備
- ・ これからの情報教育の進展にも柔軟に対応できるよう、普通教室、少人数指導教室等における ICT 教育環境を整備する。
 - ・ 環境教育の充実を図るとともに、ヒートアイランド現象等の環境問題に対応をするため、施設の緑化などのほか、自然エネルギーを活用した省エネ・省資源型の施設づくりを行う。
 - ・ 学校に必要な機能等を定めた標準仕様を基本とし、改築の経費や後年度負担（ライフサイクルコスト）の縮減も見据えた、できる限りコンパクトで維持管理のしやすい施設づくりを行う。
 - ・ 既存の規模と同等以上の屋内運動場、校庭の整備を図り、体力づくりを進められる環境を整備する。
 - ・

④ 快適で安全かつ安心な施設環境の確保

- ・ 児童が安心して気持ちよく過ごせる生活の場、異学年交流が行えるスペースをつくる。
- ・ 不審者の侵入防止や、学校周辺からの視線対策など、十分な安全・防犯対策を講じる。
- ・ 通学区域における児童推計値のほか、近隣道路の交通量や児童の登下校時の混雑等を配慮した通学門を整備していく。
- ・ 校庭、屋内運動場を中心とした学校開放を踏まえ、児童の学校生活の安心・安全を十分に確保したうえで子どもから高齢者、障害のある人にも不自由なく利用できるユニバーサルデザインの考え方による施設づくりを行う。
- ・ 地域開放型学校図書館やキッズ・プラザ等、学校運営と異なる管理主体を施設構成に含めることを想定した設計上の配慮を行う。

2 全体施設計画

(1) 施設規模の整理

① 小学校

施設の規模は、「中野区立小中学校施設整備計画」による標準仕様を基本としつつ、児童数に応じた教室数や給食室等を確保する。

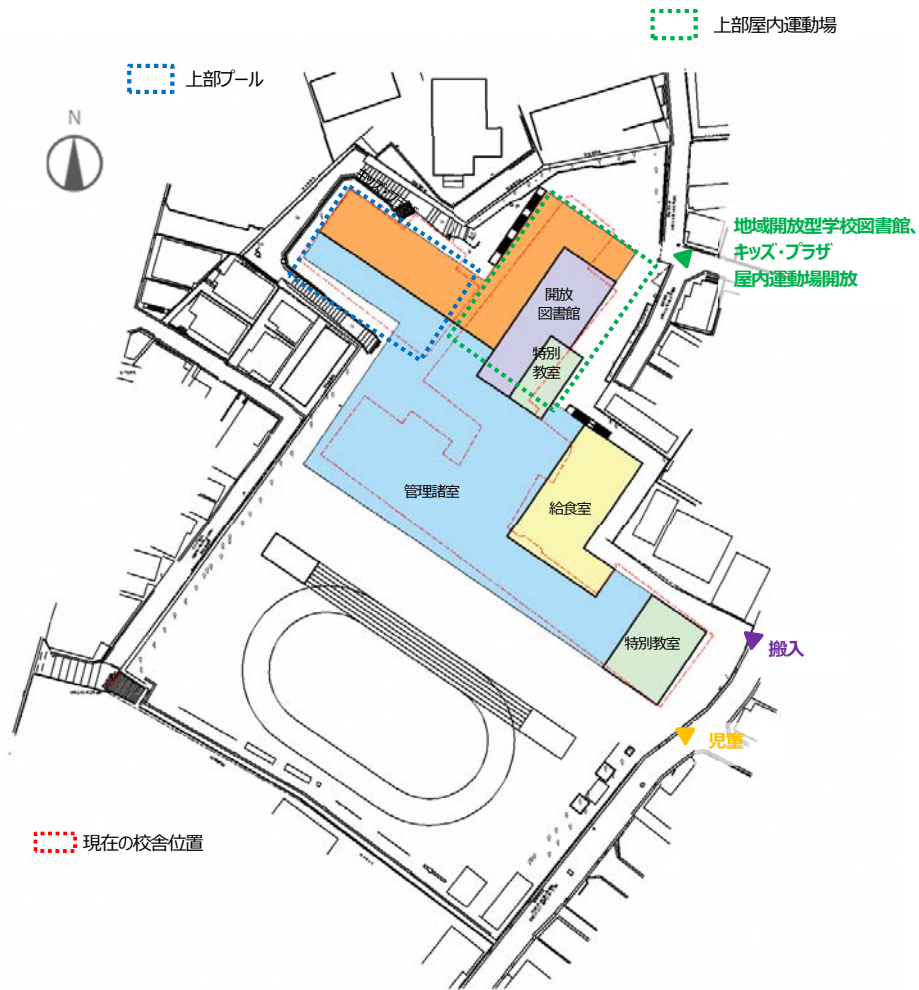
なお、普通教室は、既存の寸法（縦 9 m×横 7 m）より大きく整備する（縦 8 m×横 9 m、若しくは縦 9 m×横 8 m）。

② 地域開放型学校図書館、キッズ・プラザ

「新しい中野をつくる 10 か年計画（第 3 次）」等を踏まえ、新校舎については、地域開放型学校図書館及びキッズ・プラザも整備していく。

これらの学校以外の機能については、「中野区立小中学校施設整備計画」に定める規模を基本として整備していく。

■南台小学校建物配置 イメージ



■新校舎整備にあたっての前提

- 校舎や校庭を一体的に使用していく新たな教育環境として、上履きを使用しない「一足制」での運用による校舎を整備していく。
- 新校舎は地域開放型学校図書館及びキッズ・プラザ（活動室、学童クラブ室、子育てひろば事業を行う乳幼児室）と併設になることから、地域の拠点として区民や子どもたちが利用しやすい、親しみの持てる施設をつくる。
- 既存の規模と同等以上の屋内運動場、校庭の整備を図り、体力づくりを進められる環境を整備する。

■建物配置特徴

【校舎・校庭】

- 南側に校舎を配置。（普通教室を南向きに配置。）
- 南側に校庭を配置。（現在の南台小学校と同等規模以上を確保。）

【地域開放施設（キッズ・プラザ、地域開放型学校図書館、屋内運動場）】

- 北側の配置。